

第7回	糸魚川市駅北復興まちづくり市民会議 記 録 簿		
日 時	平成 31 年 2 月 18 日 14:00-16:00	場 所	糸魚川商工会議所会議室
出席者	<p>委員：白沢賢二委員、齋藤伸一委員、青木資甫子委員、小林大祐委員、小坂功委員、本間寛道委員、小出薫委員、土田満委員、野村祐太委員、松木美沙子委員、猪又直登委員、室川亜紀委員、齋藤里沙委員、小竹貴志委員、竹田しをり委員、木島嵩善委員、丸山剛委員</p> <p>アドバイザー：伊藤薫氏、西村浩氏、江口知章氏</p> <p>ファシリテーター：吉崎利生氏</p>		
(協議内容)			
<p>1.開会挨拶 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定刻となりましたので、第7回糸魚川市駅北復興まちづくり市民会議を開催させていただきます。早速ですが、次第に沿って進めさせていただきます。</li> </ul> <p>2. 委員長あいさつ (委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日は天候に恵まれた。駅北大火から約2年8カ月が経過した。駅北大火直後から、市は国や県の関係機関と連携を図っていただき、平成29年度から5か年計画を策定され、一定の方向のもと、被災者や関係者に寄り添った対応をしていただいた。これまでの経緯について、被災者した区長の一人として感謝申し上げる。</li> <li>・ 本日は最終の第7回市民会議となる。市民会議に託された課題が3つある。①にぎわいのに関するイメージを整理すること、②そのための施設の機能の整理及び活動内容を検討すること、③それらの活動に取り組む市民や諸機関に関すること、の3つである。</li> <li>・ これまでに、にぎわいとは何かについて議論し、次ににぎわい作る手段・方向について検討してきた。第6回市民会議では、市民会議の検討結果と市・商工会議所の検討結果とのすり合わせを行った。細部に関する協議は今後も検討が必要だが、それらは今後解決していただきたい。</li> <li>・ 最終日の本日まで協力いただいたファシリテーター、アドバイザーの皆さまには感謝申し上げます。また、市及び商工会議所などの関係各機関には資料などを提供いただき、感謝申し上げます。本日は、市、会頭に協議結果を報告する会議となるので、皆さまには、よろしくお願ひしたい。</li> </ul> <p>3. 議事 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はじめに議事(1)について、委員長から報告いただきたい。</li> </ul> <p>(1) にぎわいのあるまちのイメージについて報告 (資料 No1) (委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ にぎわいとは何かについて、第2回市民会議で検討を行った。曖昧な言葉である「にぎわい」の定義について各委員より意見をいただき、5つの観点で定義した。</li> <li>・ 1点目は、市内から市外から、目的をもってまちに人が集うことである。2点目は糸魚川に魅力</li> </ul>			

を感じた人達がたくさん訪れていることである。3点目は、駅に降り立った人たちが、まち中を回遊していることである。4点目は、住民同士の結びつきが強く、たとえ1人でいても寂しくないことである。最後に5点目は、まちの環境整備が行われ、利用されていることである。以上のとおり、にぎわいの定義を整理した。一時的なにぎわいでなく継続的なにぎわいを期待している。

(事務局)

- ・ 続いて議事(2)について、各グループより提案内容を発表いただく。

(2) にぎわいづくりに向けた提案(資料 No2、3、4)

① キッズファーストグループ

(委員)

- ・ チームキッズドリームから発表をさせていただく。我々が目指すのは、子供連れでも楽しめる駅北である。現状は駅北に子供連れがあまりいないが、今後は子供たちを連れていけるような提案を行う。
- ・ ターゲットは子育て世代、小さいお子さん、子供たちを対象としている。市では気軽に子どもを連れていける場所がない。平日は市内に4か所ある子育て支援センターぐらいしか訪問場所がないが、午前11時30分に閉まるので、結果として家にひきこもりがちである。そのため、他の子育て世代の人々と交流させていきたい。
- ・ 小中学生は放課後児童クラブ以外に居場所がなく、家でゲームを行うことが多くなっている。昔は、隣近所の友達を誘って田んぼや運動広場などで遊んでいたと聞いている。今は糸魚川に限らず隣近所の友達を誘う機会が少ない。
- ・ 「ぷらっと行ける、きっと誰かがいる」場として、子育て世代だけでなく、皆が集える場所としたい。世代を超えて交流できる場として、「あそび」「まなび」「つどい」について具体的な説明させていただく。
- ・ まずは「あそび」の場として、赤ちゃんが安心して遊べるスペースとしたい。糸魚川は自然があるため中庭があった。昔遊びや木育など雨でも遊ぶことが場としたい。糸魚川に思いを持った方がいるので、いろいろな人を巻き込めたら良い。
- ・ 「まなび」の場として、中高生が自習するスペースとして活用するとともに、糸魚川に在住している紙芝居の専門家が活躍できる場となったら面白い。駅北は商店街や企業があるため、駅北だからこそできる、商店街の方や企業を巻き込んだ活動ができれば良いかと思う。
- ・ 「つどい」の場は子育て世代をはじめ誰にでも交流できる場としたい。現在、イベントを調べると市内では多く行われているが、情報が入手しにくいので、情報を得られる場としても面白い。
- ・ ターゲットは、子供たちを育む大人が集まれるのが面白いかと思う。この活動の場があれば、これまで駅北エリアには来ないような方々が集まるようになる。また、地域や高齢者の方々も活動できると考えている。メインターゲットは使う時間帯で変えることができると考えている。
- ・ 取組みを進めるためには、場の管理者とサポーターなどがいると良い。管理自体は民間が行った方が、自由度があって良いかと考えている。
- ・ まとめとなるが、糸魚川市内で子育てしている父親や母親がいきいきと暮らしていけるようになる。また、糸魚川の一番良い部分は人が優しい点である。駅北を糸魚川の良さがぎゅっと詰まった場にしたい。

○市長及び会頭の感想

(市長)

- ・ 現役で子育てしている方からプレゼンを受けて、生の声をいただき感謝している。市では情報の発信や情報収集を行っているがずれている部分もあり、本当に求めている部分や提供できるところとすりあわせができればと思う

(会頭)

- ・ 子育てニーズへの対応のためには、このような施設は必要かと思う。上越市の施設では休日になると糸魚川市からも多数が来ていると聞いている。運営の方向性は今後の課題だが市とともに検討していきたい。
- ・ 高齢者の交流の話があったが、高齢化が非常に進んでいる地域であり、高齢者を巻き込んでいけたらよい。建設業協会の木を使ったイベントなどは子供たちから非常に喜ばれている。そのような活動ができれば、糸魚川市で仕事をしたいと思う方も出てくる。

## ② まちの小さなはじまりの物語（稼げる駅北）グループ

(委員)

- ・ チーム駅北より、まちの小さなはじまりの物語について発表させていただく。チーム駅北の目的は稼げるようになるようにしたい。そのためには、来訪者を増やす必要がある。トレンドとしては、地域の内需縮小や大型店やネット消費が中心となっていることが考えられる。
- ・ 駅北エリアの良さは人であり、人を知ってもらうことから店舗の魅力を知っていただき、稼げるようにしていくサイクルを考えた。
- ・ 現状、駅北エリアでは旅行客や高校生などは駅から出ないことが多く、バスの待合室に人がたまっている。このような方々にまちに出ていただきたい。
- ・ 一方、商店街は閑散としている。魅力があっても伝わっていないことが考えられる。そのため、当チームは本棚とランドリーがある **BOOK&LAUNDRY** をコンセプトとした。ランドリーとした理由は、日常的に人が行き来でき、交流を促すためのきっかけにしたい。また、駅北エリアには宿泊施設があり、待ち時間に色々な仕掛けを作れる余白があると考えた。
- ・ 本棚とした理由は、本棚はその人が選んだ本から人柄が伝わる。本から人へそして店へつながる流れを作りたい。最初にマイ本棚を作ることから始める。本日は、クイズを用意したので後ほど回答を配布させていただく。
- ・ 旅行している方には、本棚を通じてこの地域にどのような人がいるか感じていただきたい。高校生には、糸魚川にこんな人がいたと気づく場にしたい。地域の方には、誰かと会える場としたい。さらに、子育て世代が洗濯していたら楽しい場として集えるようにしたい。
- ・ 最終的には、ランドリーとブックを一緒にすることで、多くの出会い・交流が生まれる。また、行きたい場所、わざわざ行きたい場所となる。まちの価値が高まり、さらにまちを楽しくする人が集まるきっかけとなるようにしたい。
- ・ 課題としてクリーニング事業者に聞いたところ、人手や収益性、洗濯物を人に見られたくないとの声や夜間の緊急時対応などがあるが、ここからはじめてエリア全体の活気が出れば良い。
- ・ クイズの答えは、第1問が室川さん、第2問が小坂さん、第3問が小林さん、第4問が土田さん、第5問がプレゼンターとなっており、本をきっかけに知れるようになっていければ良い。

○市長及び会頭の感想

(市長)

- ・ 知っているつもりでも知らないことも多いということを感じた。既にコミュニティがあることか

ら、人に隠したいこともあるかと思う。人と仲良くなるきっかけとなる一步が踏み出せないこともあり、多面的な場をつくることが大切かと思っている

(会頭)

- ・ まち中に人を集めることは非常に難しいと感じている。本日のプレゼンの図を見ると周りの方々がどれだけ動いていただくかが重要かと感じた。本来だと商店街の方々が活動していただけるとありがたい。商工会議所でも知っ得ゼミを行っているが、そのような取組みももっと大きくしていきたい。

### ③ 暮らしのシェアグループ

(委員)

- ・ 暮らしのシェアグループから発表させていただく。かつての駅北中心にはにぎわいの必然性があった。(多くの公共機関、多世代の共存、世間の存在など)年々まちの中心が空洞化していく中で、様々なイベントを通じて、人工的な賑わいを作ってきたが限界を感じている。
- ・ にぎわいは目的である。そのため、再び本質的なにぎわいを生むには「ひとと暮らしの輸血」が必要である。集う、住む、分かち合うなどの必然性をつくるのが、ひとと暮らしの輸血である。
- ・ 単体ではうまくいかなかったモノやコトを「シェア」という発想で解決する。まずは、心臓の機能のエンジンが必要であり、官と民の間で情報・人材・支援策をシェアしてまちづくりをサポートする。具体的には糸魚川市と商工会議所の情報、人材支援策をシェアしてライフサポートシェアセンターをまちの中心部に開設する。ポイントはワンフロア・ワンストップサービスである。それぞれの人材が情報をシェアすることで、人材育成にもつながるかと考えている。
- ・ ライフサポートセンターで何を行うのか具体例を紹介する。機能としてメゾン・ド・ママ「子育て世代向け賃貸住宅群」を整備する。新たに整備するのではなく、空き家をリノベーションする。そして地域に住んでいる高齢者や住人が大家や寮母となってもらう。メリットは高齢者の社会参画(子守り・家事)や母親同士の悩みのシェア、空き家活用・場所のシェアなどが考えられる
- ・ 子育て世代が抱える悩みを、同じ境遇の家庭や知恵袋となる高齢者が寄り添う仕組みをつくることで、そこに暮らす必然性が生まれることが一番のポイントである。
- ・ メゾン・ド・ママの運営形態の例を想定した。家守会社を中心となりまち中にある空き家を不動産オーナーが提供する。町内会が人材提供することで、給料が発生して雇用が生まれる。
- ・ この他にもサポートセンターでできることは、シェアオフィスや共同社員寮、空き家の祭典、知っ得ゼミの拡充などが考えられる。
- ・ このまちの未来のためにまずは少しずつみんなの気持ちをシェアしたいと考えている。

○市長及び会頭の感想

(市長)

- ・ 人と暮らしの輸血はその通りだと感じた。循環しなければならない。そのためには人が重要であり、まちに備わった個性や特徴だと考えている。今回の具体策でもすぐに作っていかなければならないこともある。現在は共働きが当然の社会であるが、保育所等はなかなか増やしていけない状況もある。子育て対策が重要であり、職場近くやまちの中心に必要な機能である。

(会頭)

- ・ 今のチームの提案は商工会議所の活動につながるものも多い。商工会議所は産業活性化のために、これから産業創造プラットフォーム事業を立ち上げる予定である。雇用面では人手不足が深

刻であり、労働力のシェアもあるのではないかと感じた。産業活性化支援機能を市街地に作って  
いけば、まちの活性化につながる。市と協力してやっていきたい。

(市長)

- ・ 魅力とは何かを考えた際、提供する側の事情が強くなるが、お客さんや母親を中心に考えていか  
ないとならない。もう一度この点をリセットすることも重要である。

### (3) 市、会議所の提案に対する意見 (資料 No5)

#### ① キッズドリームグループ

(委員)

- ・ キッズドリームから発表させていただく。リノベーションについては、本当にできるかが課題と  
なる。にぎわい創出広場は、どのように運営してにぎわいを継続的に作るかが重要となる。
- ・ にぎわいの拠点は子育ての観点から駅北に集う場が重要である。また、お金がかかる話となるの  
で、しっかりと人が来るようにならないといけない。
- ・ プラットフォームとしてまちの中へ人が流れる工夫が必要との意見がグループ内からあった。

#### ② 暮らしのシェアグループ

(委員)

- ・ リノベーションに関しては、まちの常連が新しい人を連れて来れるかがポイントであり、プレー  
ヤーをどう育てるかが大切であるとの意見が出た。また、家守会社が必要であり、リノベーショ  
ンスクールのような学べる場の継続が長期的に必要との声が出た。
- ・ 広場の役割は心臓のポンプの役割で、そこが起爆剤となってまちにどう流れを生み出していくの  
かが重要である。また、広場が起点となり、まちの中のにぎわいを生み出す機能と連携するコン  
トロール機能が必要との意見が出た
- ・ 子育て包括支援センターが市民会議で出た意見と思われるのは誤解であり、ランニングコストを  
含めて、本当に投資効果があるのかを十分に検討する必要がある。
- ・ プラットフォームは市と会議所が産業・企業支援として一体でやるべきとの意見が出た。

#### ③ 稼げる駅北グループ

(委員)

- ・ リノベーションについてはぜひやっていくべきだが、どのように進めていけるか今後情報収集の  
検討が必要であるとの意見が出た。
- ・ にぎわい創出広場は、今後運用していくにあたり、PR 方法や仕掛けづくりなどソフト面で不安  
があるので、今後議論できれば良い。
- ・ にぎわい拠点は子育ての面で具体化していたが、今後人口減少の中で特化した機能で良いのか、  
もっと多岐にわたる検討が必要である。
- ・ プラットフォームは人を育てる仕組みづくりが重要であり、特にプレーヤーを育ていくことが重  
要である。また、全体を通して人を呼び込むのに駐車場が足りていないのではとの意見があった。  
今後どのような組織で進めていくのかなどの意見もあった。

#### ○市長及び会頭の感想

(市長)

- ・ 冒頭に話をさせていただいたが、本来であれば時間をかけて議論すべきかと思う。駅北大火の発  
生によって市民会議が開催されており、これまでにあった課題を含め、市が行えるものは全部出

していく必要がある。誰かが一石を投じないとなかなか難しいと思う。そのような中で今回いただいた意見を踏まえ、課題を乗り越えていきたい。乗り越えることにより駅北大火の復興や次の世代に繋げていくことができると考えている。

(会頭)

- ・ 本日は各チームから色々な意見をいただいた。商工会議所では中心市街地の活性化をいかに作っていくかが課題となっている。情報の発信に際して、一元的に発信できるシステムの検討も必要である。情報を流せる場の提供や糸魚川の中心部以外で作っているものを展示できるシステムづくりが必要と感じている。皆さまの提言を市長と相談させていただきながら、進めていきたい。

#### (4) 委員による宣言発表 (資料 No6)

(委員)

- ・ 今後このまちにどのようにかわるかについて宣言させていただきたい。現在、商店街が再建されており、いままで5つの商店街があったが、1か所が消滅しており、4つの商店街も厳しい状況である。若者なども連携して、商店街の運営が円滑に進められるように努めていきたい。

(委員)

駅北で会社が燃えてしまったのでまちに対する思いが強くなり、縁あって駅北ワークスを立ち上げた。高齢者への取組みについて会社を通じて地域貢献として行っていきたい。

(委員)

子育て支援のイベントを市内で行っており、今後も利用者としてにぎわいに作っていき、活動も頑張っていきたい。

(委員)

市役所で観光の担当もしているのでまち歩きプランを拡充していきたい。自身ではまちを歩いてにぎわいを創出してきたい。

(委員)

青年会議所を代表して、もともと駅北に住んでいる住民として発言させていただく。一番は地域に住んでいる方々の笑顔が重要かと思っている。また当事者として地域の行事に関わっていきたい。また、子供たちに地域のことを伝えていきたい。

(委員)

長く地域金融に関わっており、具体的に実行することが大切と感じている。個人としては、利用者として中心部に出かけていきたい、キッズドリームとして参加したが個人としても子育てをしているが、どの案も良い案なので1つでも実現していきたい。

(委員)

にぎわいづくりを構築するためには、来訪者を増やすことも重要であるが、地元のにぎわいづくりをどのように進めるのかの統一が重要かと思っている。近所を含め一緒となってまちづくりを進めるまとめ役をやっていきたい。

(委員)

シンプルに楽しんでいきたい。市民活動団体も楽しむ必要があり、同じ共感を持てる仲間たちと進めていきたい。まちづくりは特効薬がないので、継続的に続けていきたい。

(委員)

一市民として知っているようで知らないことが多い。自らも積極的に入っていきたい。商工会議

所の委員として民間と行政を知れる立場なので、積極的にハブの機能を果たせるようにしていきたい。また、企業人としてリノベーションまちづくりに積極的に参画していきたい。

(委員)

この会議を踏まえて取組みが始まっていくかと思うが、一市民として積極的に関与していきたい。市の職員として起業や移住、イベントなどをサポートしていきたい。

(委員)

駅北ワークスとして自身でできることを継続していくことを目標としていきたい。個人的には駅前の事業者や市民としての立場があるが、情報や知識などは自身で取りに行きたい。

(委員)

つるぎ屋の代表として、今回の資料にもトライアングルとして残っており、何ができるか考えていきたい。4月13日にグランドオープンさせていただくので、燃えなかったものとして石柱を皆さまが通っていただける通路として作っていく方向となる。糸魚川の個性を磨くために、商店街の活性化のために個人でも店でも協力して行っていきたい。

(委員)

広域商店街の会長の立場で出席させていただいている。商店街も高齢化が進む厳しい状況があるが、若い世代も出てきている。そのような方とネットワークを構築してライフワークとして進めていきたい。

(委員)

いろんなワークショップで意見は出したが、実践してきたものはないので、少しずつ実践を進めていきたい。また、小さな幸せを大切に活動していきたい。

(委員)

被災事業者として参加させていただいた。トライアングルの一員として、かかわっていきたい。昨年度会社に来られた方の60%程度は県外からで、その中の30%の方にはまち歩きをさせていただいている。今後はさらにまちに流していくことを考えていきたい。また、当事者としてしっかりと参画していきたい。

(委員)

商店街で仕事をして暮らしている。これまではなかなか実現することは難しかったが、今回の検討した案は実現していきたいし、実現するために協力していきたい。

(委員)

同じ方向を向いていくことができることが今回認識できた。微力だが少しでも同じ方向に進んでいけるようにしていきたい。

(事務局)

司会との立場から宣言させていただく。全7回の開催ですてきな皆さまと知り合えたことが財産となっている。今後とも皆さまとまちづくりの活動を進めていきたい。

## (5)アドバイザー・ファシリテーターからの講評

(伊藤アドバイザー)

- ・ 今回の発表を踏まえ、3つのキーワードがあった。別件で、糸魚川に住む方をどのように増やすかというプロジェクトに関与しているが、糸魚川市は毎年の流入人口より流出人口が多くなっている。若い世代の流出が一つ課題となっている。地元として7割以上の方が愛着を多く持っていたが、

暮らしやすさ（経済的、生活、コミュニティの豊かさ）に課題を感じている。そのため、1つ目は糸魚川らしいライフスタイルである。2つ目は魅力的で面白い活動や企業が多いが、近くにいるが知らない。人と人のつながりがある場が必要である。最後に本日も意見が出ていたが、サービスを提供する側、される側との考え方ではなく、自身が当事者意識を持つことが重要である。

（江口アドバイザー）

- 3 グループの提案は前回よりもすごくよかった。次に進めるステップとして、だれが本日の提案を進めていくかが課題となる。1 番目のグループは市外から来た方は孤立しがちであるという問題提起をされた。放っておくのは良くないので、今後、解決方法の検討が必要かと思う。2 番目グループの課題は、投資額が大きいので、だれが出資するのかなどが課題となる。特にターゲットとして子育て世代と周辺地域の方に利用していただくためのアプローチをどうするかを検討する必要がある。3 番目のチームは、シェアというキーワードに沿った提案で良い内容だった。メゾン・ド・ママの実現に向けてどのように進めていくのが課題である。また提案の中では、共同の社員寮やシェアオフィスなど企業向けサービスもニーズがあると思うので検討してほしい。他地域で行っているが、学生のインターシップ向けの宿泊施設などのニーズもある。その際、学生と企業等を結ぶコーディネーター役が重要となっている。

（西村アドバイザー）

- プレゼンの内容が良くなっていて感動した。今週 3 日間リノベーションスクールを開催する。リノベーションがうまくいくのかについては、ハードだけでなく欲しい暮らしを自分たちで作るのがポイントである。最近読んだ鎌倉資本主義という本の中で、資本主義を見直す必要があるとの話があった。人のつながり、環境やネットワークなど同時に存在する中で循環することを考える必要がある。皆さまの提案はすべて暮らしの豊かさに向かっている。少し詰めていけば、やれることは出てくる。どのグループもシェアが共通のキーワードとなっていたが、簡単に説明すると、都市経営の中に市民が参加することとなる。そのような場がリノベーションスクールである。学ぶ場所との声もあったが実践の場所である。どれだけ自分ごととして提案ができるかが重要である。

（吉崎ファシリテーター）

青い海と美しい山々などを持つ糸魚川は新潟の良さを凝縮した地域である。そのような中でどのように新しい糸魚川を作っていくかが重要である。県内の他の地域よりも皆さまの思いが強い点には驚いた。今後は一丸となって実現まで進めていただきたい。

#### (6) 委員長から市長・回答へ報告書提出

（事務局）

- 委員長から市長、会頭のほうに報告書の提出をしていただく。

#### 4. 市長、会頭からお礼

（会頭）

- 市民会議の皆さま方、長い間ありがとうございました。先ほどの報告書は、市長とともに駅北の復興、にぎわいづくりのために行っていきたい。アドバイザーの皆さまもありがとうございました。

（市長）

- 本日は、お忙しい中皆さまの貴重な時間をいただきありがとうございました。本日はこれまで 6

回にわたり真剣に協議いただいたことを実感した。駅北エリアの皆さまにとっても重要な地域であることも認識した。駅北エリアは糸魚川市を表す重要な場所であり、時代が変わっても残していきたいと思っている。復興計画の中にも記載されているが、その1つがにぎわいの拠点となる。本日皆さまからいただいた意見をもとに、規模や機能を慎重に検討して、来年度はにぎわい拠点の構想を検討していきたい。市民の皆さまに喜ばれるようにするためには関係者の皆さまに検討に加わっていただきたい。本日は感謝を申し上げ、御礼の言葉とさせていただきます。

5、閉会

以上